

しんぎょう

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

(親鸞聖人『正像末和讃』)

法然聖人の門下で、親鸞聖人の先輩に聖覚法印という方がいらっしやいました。法然聖人の信頼篤く、親鸞聖人も生涯尊敬しておられました。

安居院流といわれる唱導(お説教)の大家でもあった聖覚法印は、法然聖人のご法事に導師として聖人を讃仰する『表白』を述べられました。その中に「無明長夜の大灯炬」、「生死大海の大船筏」という言葉があります。「釈尊の使者として念仏の一門を弘め、善導の再誕として称名の一行を勧めて下さいました聖人です。これによって、破戒罪

浄土真宗本願寺派(西本願寺)

真楽寺報

令和二年十二月

根、下智浅才の私が往生の道、

浄土の門にいたることが出来て
います。智慧無き故に無明の闇
を悲しむ私に大きな灯となって
下さいました。重い悪業によつ
て大海に沈み込む私を間違いな
く乗せる大船になつて下さい
ました」と、法然聖人を讃えて
おられるのです。

いのちの意味を知らず、いのちの行く末が見えないままの人生は、闇夜の歩行に譬えられます。真つ暗な夜道を足下も見えずに歩くことは恐怖です。ここに願うべき世界は浄土であると灯りを点して下さいました。我がいのちでありながら思いのままにならない現実は、浮かびたくても浮かべない海底の石のようなものです。どんなに頑張っても浮かべない自らの姿に憂い悲しみを抱きます。この大きな石を載せる大船となつて下さい

ました。それが法然聖人という方だったのです。

親鸞聖人は『尊号真像銘文』

というお書物の中で「弥陀の誓願は無明長夜のおほきなるとしびなり。」「弥陀の願力は生死大海のおほきなる船・筏なり」と注釈されました。釈尊の使者、あるいは善導の再誕といわれた法然聖人がなして下さった御教化を弥陀の誓願、願力の表れと頂かれています。『高僧和讃』にも「阿弥陀如来化してこそ 本師源空としめしけれ」と讃えられたように、阿弥陀如来が衆生を救うために姿を顕して下さいましたとうたいあげられます。

更に、聖覚法印は『表白』で

「粉骨可報、摧身可謝」という言葉も述べられます。「よくよく聖人が御教授下さった事の恩徳を思えば、弥陀の悲願に等しい御恩です。骨を粉にしてこれを報ずべし、身をくだいてこれを謝しべし」と、報恩の思いをむねに、師弟ともに往生極

楽の道を歩むことを喜ばれるのです。

このお言葉を受けて、親鸞聖人が詠じられたのが冒頭の御和讃で、『恩徳讃』と呼んでいま

す。 私たちは法要や法座、行事のたびに「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も骨をくだきても謝すべし」と歌っています。厳かに：いや、もしかしたら終わりの合図みたいになっていたりしますが、時には楽しそうに「骨を砕き身を粉にして」と歌うのですから、奇異な姿と言えるのかも知れません。しかし、粉骨砕身したとしても報謝を尽くすことは出来ないのが如来の御恩徳です。私が身を削るような努力をするより前に、骨も身も、私のいのちのどこをとつても、阿弥陀如来のはたらきどころと頂いて、まずは御恩報謝のお念仏を申すのです。その上で、ひとりひとり、各々の縁の中で出来る御報謝の営みが現れます。

年末行事について

◎本堂大掃除・餅つき

中止のおしらせ

毎年十二月の二十九日に本堂の大掃除と、お正月用の本堂のお供えの餅つきをしていますが、今年は中止にします。新型コロナウイルス感染症が全国に広がり、長崎県も例外ではありません。例年沢山の皆様にお集まり頂き大変有難いことなのですが、大勢の人が集まり、会話をすることが感染の危険が増す要因になっているとされています。「年末年始は静かに」と政府周辺の方が仰いつてました。黙ってお掃除をするのはきついし、かけ声なしでの餅つきも不気味です。ので、残念ながら今年の中止を決定致しました。ご理解の程よろしくお願い致します。

◎除夜会

今年最後の仏徳讃嘆です。

お正信偈のお勤めのための法会とします。

期日 令和二年

十二月三十一日(木)

時間 午後九時から 勤行

年始行事案内

◎元旦会

年の初めに、御一緒に正信偈のお勤めを致しましょう。

期日 令和三年一月一日(金)

時間 午前十時より

正信偈(行譜)の勤行

◎仏具おみがき

御正忌報恩講を前に、本堂の仏具のお磨きを致します。

以前のお知らせで別の日を書いておりましたが、変更致します。お手伝い出来る方は、よろしくお願い致します。

期日 一月十日(日)

午前九時から十一時まで

◎親鸞聖人御正忌報恩講

宗祖親鸞聖人七百五十九回忌のお勤めです。聖人の御生涯を思いながらお念仏のみ教えを御一緒にお聴聞させて頂きます。

期日 一月十三日(水)から

十六日(土)まで

時間 午前九時半より

尚、十五日は午後七時より

大速夜のお勤めもあります。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人の御一生

承安三(一一七三)年

御誕生

養和元(一一八二)年 九歳

出家得度

建仁元(一一〇二)年 二九歳

比叡山を下り、吉水の源空(法然)

聖人のもとで専修念仏に帰す

承元元(一一〇七)年 三五歳

専修念仏停止、越後国府に流罪

(承元の法難)

建暦元(一一二二)年 三九歳

流罪を赦免される

建暦二(一一二二)年 四〇歳

健保二(一一二四)年 四二歳頃

関東へご移動 上野佐貫を経て、常陸稲田へ

元仁元(一一二四)年 五二歳

『顕浄土教行証文類』(『教行信証』)を著す(草稿本成立)

その後何度も校正を重ねられる

貞永元(一一三二)年 六〇歳

嘉禎元(一一三五)年 六三歳頃

帰洛

そのご晩年まで沢山の著述

弘長二年十一月二十八日

(一一六三年一月一六日) 九〇歳

御往生

◎お知らせ

☆一月の定例の法座(月例法座、家族礼拝など)は、お休みします。

元旦会、御正忌報恩講に

お詣り下さい。

毎月の行事案内

(二月、八月を除く)

◆月例法座

毎月第一日曜日

午前九時半より約二時間

◆家族礼拝

毎月第二日曜日

午前九時より約一時間

◆親鸞聖人御命日法要

毎月十六日

午前九時半〜十時半

◆門徒会(御法義歓談会)

毎月十六日

御命日法要に引続き

◆聞信会

毎月第二土曜日

午後二時より

大村市木場一丁目八五番地二
真楽寺 電話五二一五〇一八